

分科会（グループワーク）テーマ詳細

【A. 精神科リハビリテーションについて】

○発題者：滋賀県立精神医療センター 地域生活支援部デイケア係・小西亮さん〈滋賀県〉

精神科リハビリテーションは、病気の症状で生じる「生活のしづらさ」を改善し、スムーズに安定した生活を送れることを目的としてきました。近年、精神科を取り巻く環境は大きく変化してきています。地域生活における「生活のしづらさ」だけでなく、発達障害を抱える方の学校や職場での「生きづらさ」、就労場面での「働きづらさ」と多岐に渡るようになり、地域で暮らすことに困難を抱える重度の精神障害者への支援と、就労・就学場面で困り事を抱える方への支援と精神科リハビリテーションの対象は広がっています。

今回の分科会では、発達障害専門デイケアや就労準備プログラムを実施するデイケアのスタッフから情報提供を行うとともに、精神科リハビリテーションについての思いや悩みを語り合う機会とします。

【B. ピア活動について】

○発題者：社会福祉法人萌 地域活動支援センターふらっと・桑原由香さん、ピアの方数名〈奈良県〉

ピアの方々と共に「協働」し、リカバリーしていく過程を応援する「支援者」でもあるPSW。その「立ち位置」や「バランス」など、関わり中で感じる難しさに遭遇することもあるのではないのでしょうか。

今回、奈良県でピア活動の推進を実践するPSWの体験から、ピアの方を支える支援の立ち位置の難しさ、そして、ピア同士で支え合うことの大切さを考えていきたいと思います。

また、ピアの方々の体験談をお聞きして、私たちPSWに何ができるのかを改めて学び直す機会となる企画です。

【C. 精神保健福祉実践における連携・協働について～ミクロ・メソ・マクロの視点から～】

○発題者：大阪人間科学大学・吉池毅志さん〈大阪府〉

医療・福祉ニーズが多様化、複雑化する中、従来の医療・福祉の枠を超えた専門職種の相互連携・協働は不可欠になっています。でも、連携、協働、チームアプローチ・・・言葉は知っているけどそのやり方や方法を見つめ直す機会は少ないのではないのでしょうか。この分科会では、ミクロ・メソ・マクロの視点から『連携』を考え振り返ることで、日頃の実践に生かせる『連携』のヒントについて学びます。

【D. 面接技法について】

○発題者：サポートハウス アンダンテ・上田幸輝さん〈大阪府〉

みなさんは普段どのような面接をされていますか。私たちは頭の中で情報収集や分析を瞬時に行い、様々な可能性を考えて検討した支援方法を言動や行動・態度に表して支援を行っています。しかし、いきなり多数の思考を思い浮かべたり、判断のために選択肢を増やしたりするのは難しいことではないのでしょうか。この分科会では、面接・会話場面において精神保健福祉士が何を見て、どう考えているのかを事例をもとに学びます。多種多様な観察ポイントに触れ、ソーシャルワーカーとしての思考や選択肢の「引き出し」を増やす機会になればと思います。